

科目名	社会人基礎力講座Ⅱ（GCBⅡ）						
科目名(英)	Groval citizen basic Ⅱ						
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	今山 隆士
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	医療従事者として基礎となる、感謝心と思いやりの心を学ぶ。 医療従事者としての正しい言葉使い、社会人としてのマナーを学び社会人基礎力向上を目標とする。 また医療人としてチーム医療を取るためのコミュニケーション能力を獲得することを目的とする。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○			○		グローバル・シティズンとは何かを理解し、自分が恵まれた環境にあることに感謝することができる。	
	○			○		仲間を大切に、共同(協働)の気持ちを持つことの重要性を考え、気づくことができる。	
	○					医療従事者として、正しいことば遣いを理解することができる。	
			○			医療従事者として、立ち振舞の基本と応用を実践することができる。	
	○					チーム医療の中でより良いコミュニケーションを取るためのマナーを理解できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンと志～志とは何か～				振り返りレポートシートの提出	
	2	グローバルシティズンと志～どうすれば志を立てることができるのか～				教科書にて復習	
	3	なぜ志を立てることが大切なのか～世界の中の日本・日本の中の私①～				教科書にて復習	
	4	なぜ志を立てることが大切なのか～世界の中の日本・日本の中の私②～				振り返りレポートシートの提出	
	5	自己を知る～私の過去・現在・未来①～				教科書にて復習	
	6	自己を知る～私の過去・現在・未来②～				振り返りレポートシートの提出	
	7	伝える力を学ぶ①				教科書にて復習	
	8	伝える力を学ぶ②				教科書にて復習	
	9	伝える力を学ぶ③グループコミュニケーション				教科書にて復習	
	10	伝える力を学ぶ④グループコミュニケーション				振り返りレポートシートの提出	
	11	与えられた1度の人生に感謝し、志高く生きる①				教科書にて復習	
	12	与えられた1度の人生に感謝し、志高く生きる②				振り返りレポートシートの提出	
	13	自己の大切さと責任を自覚する①				教科書にて復習	
	14	自己の大切さと責任を自覚する②				振り返りレポートシートの提出	
	15	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと				振り返りレポートシートの提出	
評価方法	成績処理方法： 1.課題レポート100(%) 授業への出席・レポート締め切り日の厳守を含む						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験						
	小テスト						
	宿題・レポート	◎		○	◎		100%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	解剖学演習						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	小川 皓一
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	身体の基本的構造として、神経系、呼吸循環に対する解剖学的構造と理解を図る。また、組織学の演習より組織に対する構造と理解を図る。講義形式として概要となる講義実施した後、自ら課題を進め解剖学的構造と名称を理解し、学生間で演習を進める。各項目においてまとめテストを実施し国家試験レベルで理解度を図る。また、身体の構造位置関係の総理解として、検体解剖を見学を実施する。						
授業形態	講義：		演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				組織の名称と構造を演習より理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				神経の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				呼吸循環の解剖的構造を理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				主要な臓器の名称と位置関係を理解し、国家試験問題で解答できる。	
	○	○				身体臓器の位置関係を名称を演習より理解する。	
テキスト・教材 参考図書	PT・OT・ST のための解剖学 渡辺正仁(監修) 廣川書店 あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達夫(訳) メディカル・サイエンス・インターナショナル社 参考文献：ネッター解剖学アトラス(第6版) 相磯貞和(訳) 南江堂 日本人体解剖学 上・下巻(第19版) 金子丑之助(原著) 南山堂 入門組織学 牛木辰男						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	身体の構造の理解 神経系 概要(中枢、抹消 神経の概要)					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	2	身体の構造の理解 神経系 中枢神経① 脳					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	3	身体の構造の理解 神経系 中枢神経② 脊髄					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	4	身体の構造の理解 神経系 抹消神経					国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。
	5	身体の構造の理解 神経系のまとめ 国家試験でのまとめテスト					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	6	身体の構造の理解 心臓					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	7	身体の構造の理解 循環① 動脈系					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	8	身体の構造の理解 循環② 静脈 リンパ系					臓器の位置関係 名称を自己学習にて進める。
	9	身体の構造の理解 肺					国歌試験問題にて構造と繋がりについて理解を得る。
	10	身体の構造の理解 呼吸循環のまとめ 国家試験でのまとめテスト					演習にて自己学習を進める
	11	組織学演習①					演習にて自己学習を進める
	12	組織学演習②					確認テスト 国家試験問題にて確認
	13	組織学演習のまとめ 国家試験でのまとめテスト					検体 解剖より理解を得る
	14	肉眼解剖学演習					
	15	まとめ					
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				70%
	各項目のテスト	○	○				30%
履修上の注意	身体解剖において、構造のイメージと名称の理解を自己学習において進めておくこと。						

科目名	生理学演習						
科目名(英)	Physiology ; Practice						
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	大津 隆一	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部1年						
授業概要	本講義は実習をまじえながら、生理学の講義で学んだ生理学の知識をより深いものに することを目標にする。講義を受け教科書で勉強した知識は、実習の実験によって実 際に体験することによって、本当の知識として身につけることができる。さらに、実 習によって生理機能を計測し、実験データを処理し解析して、レポートを作成する方法を学ぶ。						
授業形態	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	◎	◎	○	○		実習を通して、様々な機能を体得し説明できる	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	電気生理の基礎				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	2	実習 運動神経伝導速度の測定(誘発筋電図)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	3	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	4	知覚と行動(脳の仕組み)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	5	実習 随意運動の反応時間				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	6	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	7	体性感覚				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	8	実習 体性感覚(2点識別・重量感覚)				実習した内容を復習し、実習につなげていくこと	
	9	実習 体性感覚(触圧覚・温度感覚)				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	10	レポート作成				実習した内容をレポートにまとめる	
	11	脳波 レポート作成				実習した内容を復習し、理解を深めレポートすること	
	12	心電図				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	13	心電図 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
	14	呼吸量				学んだ内容を復習し、実習につなげていくこと	
	15	呼吸量 レポート作成				実習した内容を復習し、内容をレポートにまとめる	
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実習レポート	◎	◎	○	○		50%
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅱ						
科目名(英)	KINESIOLOGY						
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	今山 隆士・園田剛之
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	理学療法士の評価治療介入の基礎となる身体運動の知識(下肢 体幹)を修得し、下肢関節の運動学的特徴と正常歩行の運動学的特徴を理解することを目標とする。実技、体験を通し理解を深めていく。また、講義内容に対する理解度を国家試験問題も含め、確認を行う。						
授業形態	講義： ○		演習：		実習：	実技： △	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				下肢・体幹の各関節の構造・運動について説明できる。	
	○	○				正常歩行の運動学的特徴について説明できる。	
	○	○				該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	教科書： 1)中村隆一 他 著:基礎運動学 第6版 補訂 2)山崎敦 著:PTOTビジュアルテキスト 運動学 第1版 3)河合良訓 監:肉単(語源から覚える解剖学英単語集)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	オリエンテーション 脊柱の構造					シラバス内容を事前に確認しておくこと
	2	脊柱の安定要素と運動要素 骨場と関係					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	3	骨盤 股関節の構造					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	4	股関節の安定要素と運動要素(筋の走行)					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	5	脊柱 股関節のまとめ 脊柱 股関節の確認テスト					これまでの授業資料を復習しておくこと
	6	膝関節 構造と運動の理解					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	7	膝関節の安定要素と運動要素					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	8	膝関節の安定要素と運動要素					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	9	足部 各関節の構造の理解					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	10	足部の運動名称と導く筋の理解					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	11	膝関節 足関節のまとめ 膝関節 足関節の確認テスト					これまでの授業資料を復習しておくこと
	12	歩行動作に関する運動力学の基礎					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	13	正常歩行の歩行周期・関節運動・筋活動					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと
	14	国家試験問題					これまでの授業資料を復習しておくこと
	15	全体復習＋試験対策					これまでの授業資料を復習しておくこと
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	小テスト	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	人間発達学						
科目名(英)	Human Development						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	刀坂 昌輝
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	新生児～12か月の人間の認知や運動発達を通して、発達の不思議や人間の行動の成り立ちについて学ぶ。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				人間発達とは何か。人と動物の違いについて説明できる。	
	○	○				原始反射、姿勢反射とは何か、脳の発達と神経成熟理論について説明できる。	
	○	○				0か月～12か月の粗大運動の発達について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	細田多穂・田原弘幸他：小児理学療法学テキスト第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	授業オリエンテーション					オリエンテーション
	2	原始反射と姿勢反射①	原始反射とは			該当の部分の教科書を読み、事前に予習しておく。	
	3	原始反射と姿勢反射②	原始反射の復習			ミニテスト、まとめ	
	4	原始反射と姿勢反射③	立ち直り反応・平衡反応とは			該当の部分の教科書を読み、事前に予習しておく。	
	5	原始反射と姿勢反射④	立ち直り反応の復習			ミニテスト、まとめ	
	6	中間テスト					これまでの総復習をしておく。
	7	粗大運動の発達①	新生児～3か月までの発達			該当の部分の教科書を読み、事前に予習しておく。	
	8	粗大運動の発達②	新生児～3か月までの発達 復習			ミニテスト、まとめ	
	9	粗大運動の発達③	4～6か月までの発達			該当の部分の教科書を読み、事前に予習しておく。	
	10	粗大運動の発達④	4～6か月までの発達 復習			ミニテスト、まとめ	
	11	粗大運動の発達⑤	7～9か月までの発達			該当の部分の教科書を読み、事前に予習しておく。	
	12	粗大運動の発達⑥	7～9か月までの発達 復習			ミニテスト、まとめ	
	13	粗大運動の発達⑦	10～12か月以降の発達			該当の部分の教科書を読み、事前に予習しておく。	
	14	粗大運動の発達⑧	10～12か月以降の発達 復習			ミニテスト、まとめ	
	15	授業総復習					グループワーク発表
評価方法	(1)授業の中で中間テストを実施する。(2)課題を数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				50%
	遠隔課題	○	◎				20%
	中間テスト	◎	○				30%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	自見 至郎
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	1.基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。2.様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。3.細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。						
授業形態	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きの基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
	○	○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
	○	○				細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進(1) 第5版 医学書院 参考文献：標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野 病理学 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞機能の基礎				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	2	病理学と疾患概念				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	3	内因と外因				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	4	細胞損傷と組織反応				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	5	損傷治癒				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	6	炎症と免疫				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	7	移植とアレルギー				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	8	再生医療 感染症				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	9	循環障害				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	10	代謝障害1				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	11	代謝障害2				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	12	先天異常				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	13	腫瘍1				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	14	腫瘍2				授業に該当する教科書の部分についてビデオ復習すること	
	15	まとめ				本日の内容をもって国家試験対策に取り組む	
評価方法	(1)授業の中で小テストを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	一般臨床医学						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	安藤 廣美
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	医師として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	医学の成り立ちや基本姿勢、医学対象となる健康・病気の概念や基本的な診断・治療 について学ぶ。また代表的な疾患についての理解を深める						
授業形式	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○		○		医療人である前に社会人である自覚を持つことができる。	
	○	○		○		医学の歴史と体系を説明できる。	
	○	○		○		医療人として倫理観を持つことができる。	
	○	○		○		疾病の構造を説明できる。	
	○	○		○		診断の意義を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医療概論／小橋 元／医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	医療の基本「人道主義・人権」と患者の権利を尊重する				教科書の予習しておく。	
	2	医療現場の倫理/2つのケースから学ぶ臨床倫理				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	「人の気持ちを慮ること」の大切さ/情報共有とチーム医療				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	カウンセリングによる自己決定支援/医療職のプロフェッショナルリズム				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	多様な健康観と医療観/健康の決定要因とヘルスプロモーション				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	Well-being(幸福・健康)のとらえ方と支援一国際生活機能分類(ICF)とリハビリテーション				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	心の病とWell-being/Well-being(幸福・健康)を高める支援				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	保健医療が追求する価値と医療職の役割				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	近代医学の誕生と感染症対策				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	非感染性疾患の増加一生活習慣病の予防に求められる姿勢				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	ゲノム医療の登場からゲノム編集へ/医療・情報テクノロジーの活用に伴う課題				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	健康影響をもたらす環境問題と医療職のあり方/薬害にみる利害関係の医療への影響と医療の質				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	補完代替医療と全人的統合医療/臓器移植から再生医療へ				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	健康を次世代へつなぐこと一本当に守らねばならないものは何か？				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	科学的根拠とこれからの医療				教科書の予習しておく。 授業試料のまとめを復習しておく。	
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎		○		80%
	小テスト	◎	◎		○		20%
履修上の注意							

科目名	精神医学						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	30時間	担当者	島田 洋	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	医師として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	本科目では、精神機能の理解から精神疾患の特徴について具体的な症状を含め説明していく。また精神疾患に対する治療法、経過からリハビリテーションにおける対応について学ぶ。また保険、福祉制度について理解していく。						
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				精神機能や代表的な精神疾患の概要について説明できる。	
	○	○				代表的な精神疾患の症状・治療・予後について説明できる。	
	○	○				代表的な精神疾患の症状・治療・予後について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書：上野武治著、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神障害の概念・分類				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	精神機能、精神症状(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	精神機能、精神症状(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	脳器質的精神障害、症状性精神障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	精神作用物質による症状、てんかん				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	統合失調症(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	統合失調症(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	気分(感情)障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	神経症性障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	パーソナリティ障害など				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	知的障害・発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	心身医学、ライフサイクルにおける精神医学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	治療とリハビリテーション				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	精神保健医療、福祉、メンタルヘルス				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ講義					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。筆記試験(100%)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	保健医療福祉制度論						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	伊東 良輔
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	社会福祉士として福祉分野に従事
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	保健・医療だけではなく、社会保障・社会福祉の理念と制度を体系的に学ぶ。さらに、保健・医療・福祉の法制度の現状と課題についての認識を深めるとともに、生活問題・社会問題把握の視点を習得する。						
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				社会保障・社会福祉について理念を体系づけて説明ができる。	
	○	○				それぞれの制度について、その対象と制度の代表的な内容について説明ができる。	
	○	○				それぞれの制度の利用にあたっての窓口と例外について説明ができる。	
	○	○				それぞれの制度の連携した利用について説明ができる。	
テキスト・教材 参考図書	よくわかる社会福祉 ミネルヴァ書房						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	社会保障・社会福祉の理念と体系 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	2	社会保障・社会福祉の理念と体系 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	3	社会保障・社会福祉の発展				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	4	公的扶助 生活保護制度				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	5	こどもと家庭福祉の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	6	こどもと家庭福祉の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	7	障がい者福祉の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	8	障がい者福祉の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	9	高齢者福祉・介護保険 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	10	高齢者福祉・介護保険 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	11	衛生・保健サービス				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	12	保健・医療制度の現状と課題 1				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	13	保健・医療制度の現状と課題 2				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	14	保健・医療制度の現状と課題 3				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
	15	保健・医療制度の現状と課題 4				配布資料を読みなおして、不明な用語について調べる。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	地域包括ケアシステム学						
科目名(英)	Regional Comprehensive Care System Studies						
単位数	2単位		時間数	60時間		担当者	筒口さゆり・松崎哲治
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	介護保険を含んだ地域特性に応じた地域包括ケアシステムにおける制度の中で、医療・介護・福祉・予防及び自立支援・就労支援等での分野の理学療法の評価と支援の実際について学習する。また、地域理学療法を実践するための因子分析の概要と実践を学ぶ。						
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				地域包括ケアシステムの中での地域理学療法の理念と役割を説明することができる	
	○	○				因子分析のプロセスを説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				模擬症例の地域理学療法プログラムを、因子分析を通して立案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)「実践 多職種連携教育」 中外医学社 寺崎文雄著						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション地域包括ケアシステムの概要・理学療法士とは				試験範囲提示 教科書で予習しておく。	
	2	オリエンテーション地域包括ケアシステムの概要・理学療法士とは				他職種専門職種理解を班で行う。 教科書で予習しておく。	
	3	他職種専門職種理解(グループワーク)				他職種専門職種理解を班で行う。 教科書で予習しておく。	
	4	他職種専門職種理解(グループワーク)				他職種専門職種理解を班で発表する。 教科書で予習しておく。	
	5	他職種専門職種理解(発表)				他職種専門職種理解を班で発表する。 教科書で予習しておく。	
	6	他職種専門職種理解(発表)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	7	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(医師)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	8	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(CM)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	9	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(看護師)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	10	地域での理学療法士の役割(PT)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	11	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(ST)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	12	他職種の専門職種としての視点と理学療法との関わり(OT)				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	13	事例検討				まとめレポート提出し、復習しておくこと。 教科書で予習しておく。	
	14	事例検討・総まとめ				授業内容を踏まえて、事例検討を行う。 定期試験にも類似問題を出题する。	
	15	全体復習・試験				試験範囲の説明 試験対策につながるよう全体の復習	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				60%
	課題	○	◎		◎		30%
	発表	○	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	評価学Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位		時間数	30時間	担当者	山口 寿・藤澤 盛生	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	徒手筋力検査は、理学療法に必須の知識技術です。この検査は対象者の身体を検査者が直接実施する必要がありますことから、実技を中心に講義を進めます。本講義終了時には、各検査・測定項目の実技体験を通して、評価の項目と内容(意味)と必要性について説明・実施できることを目標とする。						
授業形態	講義：		演習： ○	実習：	実技： △	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			筋力測定の意義を知り、各筋に対して表丘が実施できる。	
		○	○	○		安全に配慮して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	新・徒手筋力検査法 原著第10版 共同医書出版 動画教材						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション、シラバス説明、教科書の使い方、資料配布				教科書の予習しておく。	
	2	肩屈曲、肩伸展、肩外転				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	肩外旋、肩内旋				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	肘屈曲、肘伸展、前腕回外				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	前腕回内、手関節屈曲、手関節伸展				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	上肢復習				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	中間テスト 上肢編				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	股関節屈曲、股関節屈曲・外転・外旋と膝屈曲、股関節伸展				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	股関節外転、股関節屈曲位からの股関節外転、股関節内転				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	股関節外旋、股関節内旋、膝屈曲				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	膝伸展、足関節底屈、足関節の背屈と足の内がえし				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	足の内がえし、足の底屈を伴う足の外がえし				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	下肢復習				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	中間テスト 下肢編				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	15	全体復習とまとめ				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
評価方法	(1)中間テスト (2)実技テスト (3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○	◎			60%
	実技テスト		◎	◎	◎		20%
	中間テスト			○	○		20%
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意	繰り返しの練習が理解につながるので積極的な取り組みをお願いします。						

科目名	運動療法学Ⅰ						
科目名(英)	Therapeutic exerciseⅠ						
単位数	1単位		時間数	30時間		担当者	田中知子
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部1年						
授業概要	リハビリテーション医学において、理学療法は治療的側面が物理療法と運動療法に大別される。理学療法は本来治療医学に属し、物理的手段を用いた治療法を特徴とする。運動を通しての理学療法の効果も含め実技を多く取り入れ実践的な授業を行っていく。						
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における運動療法の位置づけ、方法論を説明できる。	
	○	○				運動療法の定期、目的、種類を説明できる。	
	○	○	○	○		関節可動域制限に対する評価と治療の理論を説明し実践できる。	
	○	○	○	○		関節可動域制限の因子について列挙し理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)市橋則明 編:運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	運動療法総論・関節の構造の復習 関節の構造・伸びる組織・伸びにくい組織					教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 運動学の復習を行っておくこと。
	2	関節可動域運動 総論(種類と目的)・他動関節可動域運動					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	3	他動関節可動域運動① 上肢・下肢					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	4	伸張運動①:伸張運動の生理学的機序・実際					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	5	伸張運動②:下肢 ハムストリングス・大殿筋・大腿四頭筋					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	6	伸張運動③:下肢 下腿三頭筋・股関節内転筋群 他					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	7	伸張運動④:体幹・頸部					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	8	中間テスト					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	9	関節モビライゼーション①:目的・方法					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	10	関節モビライゼーション②:実際 上肢					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	11	関節モビライゼーション③:実際 下肢					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	12	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際①					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	13	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際②					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	14	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際③					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。
	15	実技の振り返り・関節可動域運動 まとめ・実技試験					これまでの講義内容を復習し、理解しておくこと。 実技内容を練習し実技試験に臨むこと。
評価方法	(1)単元のまとめとして中間テストを実施する。 (2)定期試験(実技、筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				
	中間テスト	◎	◎				
	定期試験(実技)	○	○	◎	○		
履修上の注意							

科目名	物理療法学Ⅰ							
科目名(英)	Physical Agents							
単位数	1		時間数	30時間		担当者	仲吉 功治	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	理学療法士として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年							
授業概要	物理療法の定義や分類を学習し、理学療法における物理療法の位置づけを理解する。また物理療法で適応の多い炎症、それらに対する物理療法の考え方を学ぶ。温熱・寒冷・水治療法の特性・生理学的作用を学び適切な使用方法を学ぶ。							
授業形態	講義:		演習:	○	実習:	実技:	△	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				理学療法における物理療法の位置づけを理解し説明できる。		
	○	○				物理療法の適応の多い病態について理解し説明ができる。		
	○	○				各物理療法の種類・定義・目的を説明することができる。		
	○	○				各物理療法の治療効果、適応、禁忌の説明ができ、適切に実施できる。		
テキスト・教材 参考図書	吉田秀樹 編:Cross link理学療法学テキスト 物理療法学							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	オリエンテーション・物理療法導入(機器体験)				シラバス、期末試験範囲の確認		
	2	物理療法の適応の多い病態①(炎症・組織修復)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	水治療法①(水の物理的特性・生理学的作用・適応・禁忌)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	物理療法導入(水治療法実践)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	物理療法導入(水治療法実践)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	寒冷療法①(概論・寒冷療法の生理学的作用)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	寒冷療法②(寒冷療法実技)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	中間テスト				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	温熱療法①(概論・生理学的作用)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	温熱療法②(ホットパック・パラフィン)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	温熱療法③(超短波・極超短波)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	温熱療法④(超音波)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	温熱療法⑤(超音波)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	温熱療法⑥実技				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
	15	温熱療法⑦実技・まとめ				これまでの授業資料のまとめを復習しておくこと		
評価方法	(1)授業の中で中間テストを実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○					
	小テスト	◎	○					
	宿題・レポート							
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	日常生活活動学Ⅰ									
科目名(英)	Activiteis of Daily LivingⅠ									
単位数	1単位		時間数		30時間		担当者		峰岡 哲哉	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験		理学療法士として病院に勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年									
授業概要	1.「ADLの概念と範囲」を説明できる。 2.「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 3.補装具の名称、部位の名称、機能、用途が説明できる。 4.基本的動作の介助方法(全介助)について説明できる。									
授業形態	講義:		演習:		○		実習:		実技: △ ※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				日常生活活動学の概念、範囲、項目、理学療法の中での位置づけを説明できる。				
	○	○				日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。				
	○	○				日常生活活動学の評価について理解し実践できる。				
	○	○				日常生活活動学における補装具の種類と活用法について理解し実践できる。				
	○	○				日常生活活動学における基本動作を指導できる。				
テキスト・教材 参考図書	メジカルビュー社: Crosslink 理学療法テキスト 日常生活活動学									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	理学療法におけるADLの位置づけ・概念・範囲					教科書の予習をしておく。			
	2	ADLとQOL・ADLに対する支援・ADL評価の概要(評価の目的)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	3	ADL評価の概要(評価方法)					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	4	代表的な評価指標 Barthel Index					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	5	代表的な評価指標 FIM					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	6	代表的な評価指標とここまでの復習					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	7	中間テスト(30分) 車椅子					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	8	補装具 杖、歩行器					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	9	基本動作 意義、目的、臥位、寝返りの指導					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	10	基本動作 寝返りの指導					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	11	基本動作 起き上がりの指導					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	12	基本動作 立ち上がりの指導					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	13	基本動作 移乗の指導					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	14	基本動作 介助方法のまとめ					教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。			
	15	全体復習、試験対策					今までの総復習をしておく。			
評価方法	(1)各授業内容の振り返りとして課題ノートを提出する。 (2)前半のまとめとして中間テストを実施する (3)定期試験(筆記)を実施する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験		○	○				60%		
	中間テスト		○	○				30%		
	小テスト		○	○				10%		
履修上の注意	ADLⅠ:ADL概念、FIM、BI、姿勢分析、正常基本動作 ADLⅡ:基本動作分析・介助・セルフケア概念・福祉用具・自助具									

科目名	理学療法基礎演習						
科目名(英)	Clinical Education Basic						
単位数	1単位		時間数	45時間	担当者	理学療法学科教員	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務	
対象学科・学年	理学療法学科 昼間部 1年						
授業概要	早期臨床体験実習の位置づけであり、見学と体験を通し、医療人としての態度・振る舞いを身につけ、医療・介護・福祉のなかでの理学療法士の役割と位置付けを学ぶことを目的とする。						
授業形態	講義：		演習：△	実習：○	実技：△	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○		○		臨床現場の理学療法士や他部門の仕事を見学し、仕事の内容を説明できる。	
	○		○	○		対象者への検査・測定の一部実施ができる。	
	○	○	○	○		理学療法士としての将来像をイメージすることができる。	
テキスト・教材 参考図書	解剖、生理、運動学の各テキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	・事前セミナー 2023年2月6日(月)～2月10日(金) ・コミュニケーション技法(OSCE) ・ROM/MMT実技練習 ・介助法実技練習など ・リスクマネジメントについて					
	2						
	3						
	4						
	5						
	6						
	7	・基礎演習期間 2023年2月13日(月)～2月18日(土)					
	8						
	9						
	10						
	11						
	12						
	13	・事後セミナー 2023年2月20日(月)～2月25日(土) ・施設で学んだことを発表 ・理学療法士の仕事について発表					
	14						
15							
評価方法	・事前セミナー：OSCEおよび小テストなどを実施 ・基礎演習：実習状況報告書など ・事後セミナー：実習課題提出と発表会を実施 成績評価基準は上記成績を総合的に判定して、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習状況報告書	◎	◎	◎	◎		
	事前セミナー	◎	◎	◎	◎		
	事後セミナー	◎	◎		◎		
履修上の注意	実習期間の1/3以上の欠席は評価の対象とならない。						